

2025年度卒業式校長式辞（2026.3.18）

大講堂の前の桜のつぼみも、うっすら膨らみ始めました。この春の良き日に、2025年度武蔵高等学校卒業式を挙行了しましたところ、池田康夫学園長、同窓会副会長、保護者会会長並びに多くの親御さんのご出席をいただき、かくも盛大に開催できましたことに御礼を申しあげるとともに、心から喜びたいと思います。

第100期の卒業生の皆さん。ご卒業おめでとうございます。今から6年前、まだあどけなかった皆さんが、立派に成長したこの日を迎えることは感無量です。色々と思い出されます。中1のときの道徳の授業、中3のときの卒業研究、校長室で2回にわたって行った校長面談。体育祭や記念祭でのこと。その他いろいろな景色が思い出されます。その皆さんが、本日武蔵を去っていきます。さみしさを禁じ得ません。しかし、卒業式を示すコメントという言葉は「新たな始まり」を意味します。この武蔵を旅立っていく皆さんに、万感の思いを込めて最後のお話をいたします。

皆さんがこの武蔵に入学し過ごした六年間は、世界が大きく変動した日々でした。なんといっても、皆さんが入学したときに広がった新型コロナウイルス。突然の全国一斉休校に始まり、入学式は2か月遅れで、隣同士の間隔をとってこの大講堂で実施しました。山上学校も中止になりました。中2のみなかみ実習も、コロナのため夏の予定を秋に延期し、日帰りで実施。そして中3のときにはこれも日帰りで赤城へ文学散歩に行きました。中学校時代は、コロナに罹患するのではないかという不安の中で、本当に色々なことがありました。武蔵でいち早く罹患し、入院までしたのはこの私でした。皆さんは大変な中、よく頑張ったと思います。本来の学校生活が戻ってきたのは、高校入学頃からだっと思えます。一方、世界に目を転じると、中2の2月にはロシアによるウクライナ侵攻が、さらに高1の秋には中東地域でのパレスチナ・ハマスとイスラエルとの戦争が始まりました。そしてつい最近、アメリカとイスラエルによるイラン攻撃が始まりました。世界のパワーゲームが進む中、多くの命が失われています。国内に目を転じて、皆さんが中3のとき、安倍総理が、統一教会の問題に絡み、銃撃され亡くなるという大きな事件がありました。そして皆さんが選挙権を獲得した先の衆議院選挙では、日本初の女性首相である高市さん率いる自民党が圧勝するという歴史的な結果となりました。そうした国際情勢や国内政治が大きく変動する一方で、失われた20年とも30年とも言われるように、日本経済の低迷が続き、物価上昇に賃金上昇がなかなか追いつかない、あるいは格差の拡大や少子高齢化に伴う深刻な課題が繰り返し指摘されています。時代は大きく揺れ動いています。

そうした大きな時代の変わり目の中で、皆さんは10代をこの武蔵で過ごしてきた。皆

さんは、この時代を、この社会をどんな風に思っているのかなあ、感じているのかなあと私は思います。

私もみなさんと同じこの大講堂の席に、1976年3月に座っていました。ちょうど50年前です。

その昔の自分と掛け合わせてみると、おそらく、同じ武蔵の中高生。考えていることとか本質的な部分は、ほとんどあの頃と今も変わっていないと私は思います。世界の大きな問題や日々のニュースに関心がないわけではないけれども、そのことよりも、身近な問題、自分の将来や受験のことについて悩み、自分の性格や容貌についても悩み、仲間と時にわるふざけもし、そして誰かを好きになったりする。見栄をはって自信があるようで、そのくせ不安やコンプレックスも抱えていて、他者の目や他者からの承認が気になる。何にでもなれる可能性があるが、まだ何者でもない。でも何かやりたいと思っている。やらなければならないと思っている。それは私自身でした。そのへんは変わらないんだと私は思います。

一方で、武蔵生を取り巻いていた社会については、私の過ごしたあの頃と皆さんが過ごしたこの6年とでは、おそらく皆さんは感じていないでしょうが、だいぶ変わってきていると思います。そう思えるのも、私が年をとった証拠かもしれません。十代のときは時代の変化など気づく余地もありませんでした。

そして、今日皆さんはこの武蔵から飛び出します。人生100年時代。いよいよ本格的な人生が始まります。50年後の未来はきっと、50年前と今が変わっているように、今とは大きく変わっているでしょう。時代の変化はさらに加速していくと思います。

そうした変化する時代の中で、皆さんはどう生きるか、今日皆さんが武蔵を旅立つにあたり、皆さんも人生の参考になるよう、最後のメッセージを贈りたいと思います。

それは、「それぞれの三理想を、己の人生で具現化せよ」ということです。

武蔵の卒業生なら「三理想」というのは知っています。ただ、それを中高の生活でどれだけ意識しているかということ、ほとんど意識はしていないと思います。私もそうでした。むしろ、この三理想は、その後続く人生を送る中で、あとから「そうだったのか」と鮮やかに蘇ってくる。どう蘇らせるか。別の言葉で言えば、どう己の人生で形にするか。つまり具現化するか。

この六年間、時代は三理想の観点から見ても大きく変化し、難しい時代になってきたと思います。どういうことか。まず三理想の三番目から見ていきましょう。

「自ら調べ自ら考える力ある人物」、「自調自考」です。

皆さんが過ごしたこの中高時代、この「自調自考」を大きく揺るがす技術が発展してきました。それは生成AIの飛躍的進歩です。生成AIを活用した画像、動画、情報が広く出回り、社会を大きく左右する時代になりました。ファクトチェックという言葉の重要性が言われるように、一体何が真実なのかわからない。まさに自ら調べ自ら考えることが本当に重要になってきました。さらに「自調自考」の結果、自ら動いて、その結果を自ら受け入れ責任をとるという、「自動自責」も重要になっていると私は思います。

次に二番目。「世界に雄飛するにたえる人物」、「世界雄飛」です。

これも、この6年間で大きく変化してきました。コロナパンデミックもあり対面的な接触に制限があった一方で、ICT技術の飛躍的進歩もあり、オンライン授業やオンライン会議など、バーチャルで表面的なつながりの世界が無限に広がってきたと思います。

昔は世界雄飛というと、単純に海外に留学するイメージがありましたが、今やネットを使えば海外には簡単につながります。世界に雄飛することの本質は、私は表面的なつながりでなく、いいことも嫌なことも直接的に身体的に感じることはないかと思います。世界に雄飛するとは、別の言葉で言えば「コンフォートゾーン」を飛び出していくこと。自分の世界に安住するのではなく、摩擦や失敗を恐れず、自らの「コンフォートゾーン」を飛び出していくこと。それは必ずしも海外留学だけではないと思います。

最後に三番目。「東西文化融合のわが民族理想を遂行し得べき人物」、「東西文化融合」です。

これも、この6年間の世界情勢を見ると、その必要性が高まっています。ロシア、アメリカ、中国あるいはインドの台頭。そして世界のあちらこちらで対立が激化し、「混迷と分断」を深めています。20世紀後半に築き上げてきた国際協調や人権重視の考え方も、ともすると弱まり、覇権争いの時代になってきたように感じます。そうした中、今まで以上に、多様で異質なものを繋ぎ合わせる「東西文化融合」の意義が求められていると思います。

私は、皆さんが中1のときに亡くなられた有馬朗人前学園長が生前よく言われていたことを思い出します。

「日本人はアメリカとも仲がいい。中国とも歴史的に深いつながりがある。そしてイスラム世界からも信頼されている。その日本人こそ東西の懸け橋にならなくてはいけない」

日本人の持っている謙虚さや和の精神。そのことは時に、あいまいだとか主張をしないとかマイナス的に語られる場合もあるけれど、必ずや日本人のメンタリティが対立する世界をつなげる役割を担うるのではないかと私は思います。

それぞれの三理想を己の人生で具現化せよ。講演会などで、武蔵に戻ってきてお話をすする先輩たちの多くが、その講演の最後に、三理想を引き合いにしながら、それぞれの人生について語られます。在学中は意識していなかったけれど、それぞれの人生の様々な場面で、それぞれのやり方で、三理想が浮き上がってくると思います。ぜひみなさんも、この三理想を、ぜひそれぞれの人生のステージで形として表せるよう、具現化してほしいと願います。

最後にもう一つ。人生を生きていくうえで、私がいつも使っているおまじないの言葉を伝えます。人生は思い通りにならないことも多々あります。むしろ、結果が出ないことの方が多いでしょう。そんなときのおまじないの言葉です。

それは、おいあくまで。おいあくまは5つの人生の秘訣の頭文字です。おこるな、いばるな、あせるな、くさるな、まけるな。その頭文字で、おいあくま。この中には、来年度捲土重来を期している諸君もいるでしょう。私も50年前そうでした。でも全く問題ありません。大きく構えて、前を向いて、価値ある人生を創り上げていってください。おこるな、いばるな、あせるな、くさるな、まけるな。おいあくま。私から皆さんへのプレゼントです。苦しい時、思いだしてください。

結びに、本日参列いただいたご家族の皆様にご心より御礼を申し上げます。この6年間、本校の教育にご理解ご協力をいただき誠に有難うございました。至らない面も多々あったと思いますが、教職員一同、一生懸命取り組ませていただきました。この武蔵の環境で、多感な十代を過ごし、立派に成長した若者として、皆さま方の大切なご子息を本日お返しできたことを嬉しく思います。

本日をもって、武蔵とのご縁はいったん切れてしまいますが、今後とも末永くこの武蔵のことを暖かく見守っていただければと思います。本当にありがとうございました。

それでは、本日この武蔵を旅立つ100期生の前途洋々たる未来を心から祈り、私の式辞といたします。

2026年3月18日

武蔵高等学校中学校 校長 杉山 剛士